

農の道、自然とともに

宮城県加美農業高等学校 1年 長沼 佑弥

日本の農業を、世界に誇れるものにする！これが私の夢です。

私は小さい頃から、家の手伝いをするのが好きでした。4月は桜を見ながら稲の種をまき、5月にはその苗を植える。秋には太陽に照らされ黄金色に輝く稲を刈り取ります。私の家の田んぼでは、合鴨を使った有機栽培をしていたことがあり、合鴨の世話は私の日課でした。合鴨は田んぼに生えている雑草を食べて糞をし、栄養を与えてくれたり、泳いで土を混ぜてくれたりします。元気に働く合鴨の可愛さと世話の楽しさから、私は農業に興味を持つようになりました。また、小学校4年生の頃には、自分でも野菜を作り始めました。この時祖父に教わったのは、農薬も肥料も使わずに作る農法です。当時の私は疑問すら持ちませんでした。とても貴重な体験をしていたのだということが今になってわかりました。中学生になり、機械の操縦などできることも増えると、農業への思いはさらに強くなりました。様々な生き物の力を感じられる農業。豊かな自然に囲まれ、自然に逆らわず、自然と共存しながら農業を楽しむ生活。これが日本中で当たり前になれば、どんなに素敵な風景が広がるのでしょうか。そんな思いを抱き、私は農業を学ぶために加美農業高校に入学しました。

みなさんは、ここ日本の農薬使用量が世界でトップクラスだということを知っていますか？今、日本で一般的に行われているのは、効率と生産性を追求する農業です。このやり方には、たくさんの農薬や肥料が必要になります。害虫から作物を守る農薬や、生長を促す肥料を大量に使うことで、効率よくたくさんの農産物を収穫することができます。つまり、手間をかけずに生産してたくさん収入を得たいのです。しかしその一方で、大量の農薬と化学肥料は土壌を浸食し、少しずつ環境を壊してきました。そうして作られた食べ物を食べ続けたことが、体調を崩したり、アレルギー症状が出たりする人が多くなった原因の一つとも言われています。私たちは、人間の都合で自然に背き、環境を破壊し、そして自らの健康をも壊してきたのです。

日本の農業は今、岐路に立たされています。私が皆さんに訴えたいのは、食の安全を重視する農業。農薬や肥料を使わずに、自然のままに農作物と向き合う農業の推進です。これは「自然栽培」と呼ばれています。自然が持つ大きな力を信じ、自然の声を聴きながら作物を育てます。私の祖父は、10年ほど前からこの「自然栽培」でお米や野菜をつくっています。無農薬、無肥料。自然の中で、自然のままに生長した農作物の味は最高です。これこそが、本来の味なのです。私は、自然とふれあいながら、のんびり、ゆったりと農業を楽しんで、収穫した時の喜びが消費者にも伝わるような、生産者の思いが詰まった農産物を作りたい。もちろん、農薬や肥料を使った栽培に比べると、除草などの手作業が多い割に収穫量が少なく大変な苦勞があります。しかし、自然を不自然に変えてしまっただけで生産性を追求することが、本当に正しいのでしょうか？

私は今、祖父と、父と、私と、親子三代で幻の米ササシグレを栽培しています。その味はササニシキに勝るものです。しかし、栽培中に倒れたり病気にかかりやすかったりと、育てることが難しいことから生産する人がいなくなりました。そんなササシグレを自然農法で育てると、不思議と元気に育っていくのです。その田には雑草が至る所から飛び出し、管理不足では？と思う人もいるかもしれません。しかし、それが自然なのです。多様な雑草が稲と仲良く共生し、その足元には絶滅危惧種のゲンゴロウやタガメが暮らす。その自然の一部を、人間がそっといただく。

私は農業をしていることを、心から誇りに思います。農業をする人がどんどん減っていく中で、親子三代、自然とふれあいながらお米や野菜を作り、たくさんの人に安全でおいしい食べ物とともに喜びを届けられること。私は農業の楽しさを祖父や父から学びました。そしてこれからは、自然と向き合う農業の楽しさや、身近な自然の大切さを多くの人に伝えていきたい。卒業後は家を継ぎ、自然栽培をさらに広めていきます。そして、生まれ変わった日本の農業を世界に誇れるものになりたい。私はこれからも、農の道を自然とともに歩いていきます。